

市労連総決起集会報告



二〇一六年六月十四日(火)市役所前広場で、一三〇〇人が参加し市労連総決起集会を開催した。門川大作市長に六月二日に提出した「夏期一時金等要求書」に対する交渉を行い、夏期一時金については二・〇二五分、夏期休暇については五日間で大綱妥結した。要求事項とは隔たりがあるものの、景気実感が中小にまで行き届いていない中では精一杯の回答となった。今後の人事院勧告、京都市人事院勧告では、「給与制度の総合的見直し」が導入され厳しい状況ではあるものの、最大限の成果を得られるよう精一杯取り組んでいきたい。

2016.5.24 狭山事件の再審を求める市民集会

「証拠開示で明らかになった決定的新証拠、再審開始を」

五月二十四日、東京日比谷野外音楽堂で狭山事件の再審を求める市民集会が開催されました。全国から石川さんの無実を訴える仲間たちが集結し、京交からは伴野副委員長と山本自動車部長の二人が参加しました。冒頭、部落解放同盟の組坂中央本部委員長のあいさつがあり、政党からは江崎孝参議院議員(民進党)、吉田忠智参議院議員(社民党)よりあいさつを受けました。集会では、弁護団より取り調べを分析した再審理由補充書を提出したことの報告があり、その取り調べについては、取調官が誘導して自白させていることがはっきりと示されており、その自白強要は明らかです。この事実は石川さんの無実を示す決定的新証拠です。石川さんが不当逮捕され、冤罪におとしめられ五十二年もの年月が経つてい

ます。私たちは東京高裁に再審開始を求め、また、あらゆる冤罪をなくすための司法民主化に向けての運動を継続し、世論をさらに大きく取り組みを進めなければなりません。一日も早く石川さんの「見えない手錠」をはずすために、狭山事件の再審が実現するよう皆さんの運動への取り組みをお願いします。集会アピールが採択されたあと、沿道の人々に狭山再審開始を訴えるため、会場から裁判所へ震が関ノ門へとシユプレビコールを繰り返しながら横断幕をかかげてデモ行進を行いました。



～会場の様子～



無実を訴える石川さん



発行所 京都交通労働組合
京都市中京区壬生坊城町48
TEL075-841-0948 FAX075-811-3536
定価 一部10円
本紙の購読料は組合費に含まれています
毎月1日・16日発行
発行者 瀬戸高志
編集者 梅田涼

- 市労連総決起集会報告
- 2016.5.24狭山事件の再審を求める市民集会
- 熊本地震・自治労ボランティア支援活動報告

- 2016年度職員提案制度「市長賞」を受賞
- 自治労京都府本部新人歓迎会報告
- 熊本県災害派遣報告
- 教宣部員のつづやき



熊本地震・自治労ボランティア支援活動報告

5月16日から始まった支援活動。第3Gで1週間の支援参加！ 震源地益城町で瓦礫の撤去作業を行った！

二〇一六年五月二十九日(日)十三時から九州労金熊本支店で自治労ボランティア支援活動会議が行われた。近畿以西の県本部五十三人が参加し、京交からは、堂下直也電車副部長と梅田涼自動車副部長が参加した。冒頭、熊本県本部執行委員長が「カンパを含めた多くの支援や協力に感謝します。依然、多くの被災者が避難生活を続けている。皆さんの力を借り一日でも早い復興を目指したい。怪我の無いように支援をお願いします」と挨拶に立った。続いて、熊本県本部・九州地連・自治労本部が事務局となり、支援活動対象自治体と活動内容及び活動場所の説明がされた。第3Gは、阿蘇、山都の二つのBC(ベースキャンプ)に分かれ、避難所運営補助と瓦礫搬入作業補助となり、熊本県内の六自治体で支援活動を行うとされた。京交は、阿蘇BCを拠点とする益城町の瓦礫搬入作業補助の担当となった。第2Gからの引継ぎを聴き、阿蘇BCに移動した。翌三〇日から益

城町の旧中央小学校跡地と小谷(おやつ)で瓦礫の搬入作業補助を開始した。連日多くの瓦礫が運び込まれ分別作業や誘導作業におわられた。現地周辺では、ライフラインは復旧しているものの、ほとんどの家屋が瓦の落下や倒壊に見舞われ、河川や道路は亀裂や寸断が目立った。一週間支援活動をして第4Gに引継ぎを行い、ボランティア支援活動を終了した。現地では、地震発生から二ヶ月が経過した今もなお、手つかずの家屋が沢山残されている。テントや車内で生活を続けておられる方も残っているが、復旧には、多くの時間がかかる。早急な対策と一日でも早い復興を祈念する。梅田涼 自動車副部長

熊本地震・自治労ボランティア支援活動に参加して
二〇一六年五月二十九日(日)から六月五日(日)まで、自治労の要請で熊本地震・自治労ボランティア支援活動に参加しました。二十九日の午後、熊本市内の労金会議室で、前任者からの引継ぎを受け、ベースキャンプとなる阿蘇の司ビラパークホテルに移動しました。翌日から土曜日までが実際の作業日となり、朝七時にバスでベースキャンプを

出発し、作業現場となる益城町木山中学校跡地に作られたガレキ集積所に向かいました。本来は約三〇分で移動出来たそうですが、阿蘇大橋の崩落により峠越えの渋滞で一時間以上要しました。作業内容は、火・木・土・日が搬入日となっており、持ち込まれたガレキの荷降ろし作業と車両誘導を行いました。その他の日は搬出日となっており、大型車両の誘導と、分別しきれないゴミの選別作業を行いました。損壊した家屋からは、瓦などの屋根材・ガラス・木材・壁材・プラスチック・コンクリート・家電など様々なガレキが持ち込まれ、選別と積込みにも相当苦勞された様子でした。一般の方もボランティアアセンタを通じて多く参加されており、町役場や請負業者も含め、様々な人で集積所は運営されています。

梅田涼 自動車副部長
今後はインフラ整備、住宅の復興が本格的に進んで行き、お世話になった集積所もますます忙しくなっていくと思います。一日でも早く元の生活を取り戻されるようお願いいたします。また、数年たって復興した時には是非現地を訪れてみようと思います。
堂下直也 電車副部長

益城町の旧中央小学校跡地と小谷(おやつ)で瓦礫の搬入作業補助を開始した。連日多くの瓦礫が運び込まれ分別作業や誘導作業におわられた。現地周辺では、ライフラインは復旧しているものの、ほとんどの家屋が瓦の落下や倒壊に見舞われ、河川や道路は亀裂や寸断が目立った。一週間支援活動をして第4Gに引継ぎを行い、ボランティア支援活動を終了した。現地では、地震発生から二ヶ月が経過した今もなお、手つかずの家屋が沢山残されている。テントや車内で生活を続けておられる方も残っているが、復旧には、多くの時間がかかる。早急な対策と一日でも早い復興を祈念する。梅田涼 自動車副部長



・・・分別作業の様子・・・



・・・現地の方と・・・

